

日本視能訓練士養成施設連絡協議会  
平成 20 年度教員研修会報告書

平成 21 年 3 月

平成 20 年度教員研修ワーキンググループ

## はじめに

### 教員研修ワーキンググループの発足からこれまでの経緯

日本視能訓練士養成施設連絡協議会は、「視能訓練士養成に関して連絡、協議し、教育の向上、発展を期する事」を目的に運営されている。

平成 16 年度第 1 回連絡協議会総会(内田会長 6 月開催)において、会則の改正が諮られ、新たにワーキンググループ（以下 WG）が設けられた。この時、ガドラインWGとともに教員研修WGが承認され活動が開始された。

その後、平成 18 年に教員研修の事前アンケートを実施し、平成 19 年度第 1 回総会（小島会長 6 月開催）にて久保喜美氏よりアンケート結果の報告がなされた。そして、19 年度からの担当校となった国際医療福祉大学新井田会長の下で 11 月に臨時総会がもたれ平成 20 年度教員研修開催に向け具体的な担当者・日程等が決定した。

第 1 回教員研修会の開催に向け、平成 20 年度教員研修WGで研修の目的を定めた。

#### 教員研修の目的

- ① 視能訓練士養成施設の教育レベルの向上
- ② 専門課程教育指導法の共有化
- ③ 専任教員個々の指導スキルの向上

研修目的を踏まえ、平成 20 年 8 月 28・29 日に国際医療福祉大学大学院サテライトキャンパスにおいて第 1 回教員研修会が開催された。

ここに第 1 回研修会の報告をする。

平成 21 年 3 月 31 日

#### 平成 20 年度教員研修ワーキンググループ

代表 島 充子（東京医薬専門学校）  
久保 喜美（国立病院機構  
大阪医療センター附属視能訓練学院）  
小島 ともゑ（大阪医専）  
小町 祐子（国際医療福祉大学）

## 目 次

研修日程	-----	1
教育講演		
資料	-----	3
講師略歴	-----	4
グループワーク		
学習指導案フォーマット	-----	6
「テーマ1」学習指導案		
A	-----	7
C	-----	9
E	-----	11
G	-----	13
「テーマ2」学習指導案		
D	-----	15
F	-----	17
H	-----	18
B	-----	19
研修風景（写真）	-----	20
アンケート		
フォーマット	-----	25
アンケート結果	-----	27
意見・感想	-----	34
会長総評	-----	35
教員研修ワーキンググループ事業報告	-----	37
編集後記	-----	38
アンケート単純集計	-----	40
加盟校一覧	-----	41

# 平成 20 年度 日本視能訓練士養成施設連絡協議会

## 第 1 回教員研修 プログラム

- 目的 1. 養成校専任教員個々の指導スキル・マインドの研修を通し、視能訓練士養成施設の教育レベルの向上を目指す。
2. 第 1 回の研修では、専門課程の教育指導法・指導レベルの向上を目的とする。今後の研修へ繋げる気付きの場とする。

受講対象者	日本視能訓練士養成施設連絡協議会 専任教員	
開催日時	平成 20 年 8 月 28 日（木）～8 月 29 日（金）	
研修会場	国際医療福祉大学大学院東京サテライトキャンパス 青山ホール	
研修テーマ	テーマ 1. 成人の裸眼視力の測定法 テーマ 2. 正常両眼視の講義（初回導入） 具体的な授業教案をグループで作成する	
8 月 28 日（木）	13:00	受付開始
	13:30	初日研修開始（ホール）
	13:30～13:40（10 分）	概略説明 (事務連絡及び研修テーマの趣旨について確認)
	13:40～14:20（40 分）	講演（講師：川村緑先生）
	14:20～14:30（10 分）	会場転換及び休憩
	14:30～18:00（210 分）	グループワーク（8 グループ）
	18:30～20:30（120 分）	懇親会（A 教室）
	20:00	中締め
	21:00	第 1 日終了
8 月 29 日（金）	9:30	開場
	10:00	2 日目研修開始
	10:00～12:30（150 分）	プレゼンテーション、質疑応答 最終ディスカッション、研修後アンケート
	12:45～13:00（15 分）	研修総括（新井田会長）
	13:00	研修終了

# 教育講演

# 教育講演 「より良い視能訓練士の教育のために」

川村 緑 先生

より良い視能訓練士の教育のために  
教員について

## 1. 社会での係わり

人の生き方多様であること

一般的に大きな流れとして

※1期. 乳幼児期から少年期：保護される時期

※2期. 成人期：徐々に保護をする側に

職業でも取得期から熟練期に亘り、社会にも還元する立場となる。

※3期. 高齢期：保護されるが、1期のように全面の必要性はない。

身体能力・知的・精神能力・財産力等、一様ではない。不足分を補いあう。

(1期は別として、それぞれ年齢で単純に区分できない。)

視能訓練士の教育の課題は、2期にある。

## 2. 養成校教員になった側の考え方には？

動機

職業観 職業教育を専門とする。

臨床との係わり

教育の論理と倫理

職業倫理 向上心・埋没しない意思

## 3. 教員に求める立場の考え方には？

学生

係わる親・友人 (学校・施設に?)

係わりのある講師・関係者

視能訓練士・協会・協力団体

社会通念

## 4. 望ましい教員の資質 (専任教員養成委員会・平成10年)

教育者として望ましい資質について。1995年視能訓練士実態調査報告書

- ①. 視能矯正学に対して専門的知識を持ち、自らも学び続けようとする意思を持つ。
- ②. 教育を行う側が、臨床に興味を持ち、熱意が伝えられる。
- ③. 良識ある人間であり、円満な人間性を持っている。
- ④. 豊かな教養と人類愛を持ち、実行力がある。
- ⑤. 将来に発展的な夢を持っている。

## 5. 養成校教員は、よき医療人・視能訓練士として医療関係で働く人材、社会に還元する人材を育てる尊い使命がある。完全優良な環境で教育できるとは限らない。知恵を働かせ、努力し、協力し合い、改善出来る所は改善しながら、目的に近づく面もある。この過程は、無駄ではない。良い教員がいなければ、良い医療人は育たない。

以上から問題点を挙げ、考えたい。



## グループワーク

## 学習指導教案フォーマット

テーマ					
グループ		人数		教員歴	

### 学習指導案

科目名	講師名	日/時間	/ 90 分
科目目標	講義目標		準備物
時間／段階	講義内容		
時間	指導内容・指導方法	留意点	
導入			
展開			
まとめ			

## 学習指導教案

テーマ	成人裸眼視力の測り方				
グループ	A	人数	6名	教員歴	1~3年

### 学習指導案

科目名	生理光学実習	講師名	A グループ	日/時間		1 / 90 分		
科目目標		講義目標			準備物			
正確な屈折値と矯正視力を求め ことができる		成人裸眼視力の測定方法を理解する			<ul style="list-style-type: none"> <li>・視力表</li> <li>・検眼枠</li> <li>・遮蔽板</li> <li>・ペンライト</li> <li>・ガーゼ</li> </ul>			
時間／段階	講義内容							
時間	指導内容・指導方法			留意点				
導入	<p>① 検査室の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・室内の明るさ 50lux 以上</li> <li>・視力表の輝度 <math>500 \pm 125 \text{rlx}</math></li> <li>・検査距離 5m</li> <li>・眼の高さ 視力表 1.0 のライン</li> <li>・PD を測定し、検眼枠を選択</li> </ul> <p>② 検査</p> <p>患者さんに検査を理解させる（説明）</p> <p>オートレフラクトメータ、眼鏡のデータなしで実習 ぼやけても、なんとなくでも見えたたら答えてもらう 目を細めない</p> <p>片眼遮蔽後、0.1 見えるか確認 →見えた 2/3 または 3/5 読めた → pass どこまで読めるか → 視力値決定 →見えない 患者さんの眼前でオリエンテーション 5mから 50cm ずつ近づいていき、分かると いった位置でランドルト環を提示 5 回のうち 3 回以上正答で視力</p>			<p><b>【問題】</b></p> <p>PD61mm の人の検眼枠は？</p> <p>・1~2/5 は partial(P)と記載することもある</p>				

	<p>→0.01 のランドルト環が見えない          指数弁 50cm から近づける          記載 20cm 指数          20cm/n.d.          20cm/c.f.          20cm/F.Z.</p> <p>手動弁 方向性を答えてもらう          距離は必要に応じて記載          記載 m.m.          h.m.          H.B.</p> <p>光覚 明室、暗室          光の投影方向を正確に答えた場合、          投影確実とする          暗室で光覚 (-) → 視力 0 (全盲)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指の本数は、3 本程度までとする</li> <li>・他眼の隙間から動きが見えないようにする</li> <li>・風で判断されないようにする</li> <li>・視覚的でなく、熱などで判断する患者さんもいるので注意が必要である</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近見視力は 33cm で検査</li> <li>・中心視野がない場合、視線や顔の位置をずらす → 他眼の遮蔽に注意</li> <li>・ラ環がわからない場合は可読闘も使う</li> <li>・東西南北など、特殊なお答えをする患者さん</li> <li>・詐盲：他覚的検査を併用</li> <li>・自覚検査であるため、患者さんから上手にお答えを導く</li> <li>・検査内容をきちんと説明する</li> </ul>	

テーマ	成人裸眼視力の測り方				
グループ	C	人数	6名	教員歴	1~4年

### 学習指導案

科目名		講師名		日/時間		90分×2
科目目標	講義目標				準備物	
	成人に対して遠見の裸眼視力が測定できる					
時間／段階	講義内容					
時間	指導内容・指導方法			留意点		
導入 1限	①視力とは・・・概念 導入→まず、学生が見たことがあるような <u>一般的な視力表</u> を見せる ランドルト環、ひらがな、数字、 絵視標など “見る”ことを評価するためには基準が必要 ↓ * 視覚と視力の成り立ち * 物体の形態を知る4つの尺度			矯正視力検査が最も大事である		
	②実際にランドルト環（視角1分）を描かせて みる			・飽きさせないため ・ランドルト環の大きさと視角の 関係を実感させる		
	③視力表の種類 小数視力、分数視力、対数視力など					
	④遠見視力の測り方 測定条件 記載の仕方					
2限	⑤実習 * 遮蔽板の入れ方 >実習 20分 * 検眼枠のかけさせ方 学生同士で実際にさせてみて、注意点を自分たちで考えさせる レポートにまとめさせる			・患者に不快な思いをさせないためにはどのようにしたらよいか？		

	<p>⇒フィードバック（解説を加える）</p> <p>* 教員がデモンストレーションで測定してみる（0.1以下も含めて）</p> <p>* 裸眼視力測定の実習 30分 被検者、検者、見学者の3人1組</p> <p>* 0.01以下の視力の測り方 10分 眼帯、アイパッチ、手</p> <p>* 0.01以下の視力の実習 20分</p> <p>⑥まとめ 実習結果をレポートにまとめて提出させる 10分</p>	
--	---	--

テーマ	成人裸眼視力の測り方				
グループ	E	人数	6名	教員歴	3~6年

### 学習指導案

科目名	視能矯正学実習	講師名	日/時間		90分
科目目標	講義目標			準備物	
成人の裸眼視力の測定	裸眼視力 0.1 以上の成人の遠見視力の測定、片眼視力と両眼視力の測定、瞳孔間距離の測定が正しくできること。視力値は 5 分の 3 以上、判別できる最大の小数視力（最小の視角）であることを理解すること。			照度計、P D 計、検眼枠、遮蔽板、視力台、椅子、レポート用紙、筆記用具	
時間／段階	講義内容				
時間	指導内容・指導方法			留意点	
導入	<p>実習前の条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本実習は、以下の条件を想定して行う実習とする 人 数：12名 グループ：2人1組（役割：検者・被検者） 視 力 台：6台（標準検査装置：字づまり視力表） 教 員 数：3名（1人あたり4名を指導） ※ 視力に関する講義は履修しているものとする ※ 0.1 以上の視力を測定するものとする（0.1 未満の視力検査は別枠で指導する） 留意点：裸眼が 0.1 未満の被検者の場合、どのように対処すべきか 対 処：教員が学生の視力・屈折値を把握し、0.1 以上が見えるように矯正しておく、もしくは距離を変えて対応する</li> </ul> <p>1. 検査前の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスする条件 標準視力表に基づき 5 分の 3 以上の正答とする</li> <li>・測定眼 片眼（右眼から）+ 両眼</li> <li>※ 検査眼を間違わないように、特別な場合を除き 右眼から測定するよう指導</li> <li>・最高視力値 2.0</li> <li>※ 施設によって測定基準が異なることを説明</li> </ul>				

	<p>2. 測定前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視力表 視距離：5 m、眼の高さ：視標 1.0 の高さ</li> <li>・室内照度の測定 照度計を用いて室内の照度を測定</li> <li>・PD の測定 検眼枠を使用するに伴い、この場で PD の測定方法を指導 PD の測定は一度教員が見本を見せる ※本実習を単独で行うのであれば、遮眼子でもよいが、通常裸眼視力と同時に矯正視力も測るために、今回は検眼枠を使用し実習を行う方針とする</li> </ul> <p>3. 視力検査の実習手順</p> <p>視表は一列につき 3 回あるいは 5 回、全ての視表を呈示する また、視表は大きいものから順番に呈示していく Ex)0.1→0.15→0.2→・・・ ※別の実習で、臨床での測定方法はより効果的な方法が採用されていることを説明する</p>	
展開	本実習は初回であるため、発展的な実習は行わない	
まとめ	<p>1. 代表者による視力検査のデモンストレーション</p> <p>2. デモンストレーションに対する討論</p> <p>3. 教員による本実習における留意点の説明</p> <p>タイムスケジュール 実習時間 90 分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検査前の説明 (5)</li> <li>・測定前準備 照度測定 (5)</li> <li>・測定前準備 PD の測定 (10)</li> <li>・視力検査 片眼視力+両眼視力 (10)</li> <li>・検者・被検者 入替 PD の測定・視力検査 (15)</li> <li>・ペア入替 PD の測定・視力検査 (30)</li> <li>・まとめ (15)</li> </ul>	

テーマ	成人裸眼視力の測り方				
グループ	G	人数	6名	教員歴	7~24年

### 学習指導案

科目名	視能矯正学実習 (1年次生20名)	講師名	G グループ	日/時間	H20/8/29	90分×2コマ
時間	講義内容					
時間	実習項目	指導内容	資料	指導上の留意点・Key Words		
20分	①ガイダンス	実習ルールと実習方法の説明 2名(10組)決定する 到達目標を理解させる 実習の進め方を理解する	配布資料 1枚 身だしなみ 記載方法	実習を行う上でのルールなどを理解させる 医療人としての服装 身だしなみ メモ帳の携帯 手洗いの励行		
60分	②PDの測定  ③視力検査の検査条件  ④裸眼視力値の決定  ⑤記載方法(例)	遠方のPDを測定し、各自のPDにあった検眼枠を持ってくる 検査距離(5m)をメジャーで測定する 3/5を徹底する 3/5が見えてから、次の段階に進む <u>0.1未満の測定方法</u> 5mから視力表を50cmずつ近づける 単一視力表は、一度隠して提示する <u>0.01未満の測定方法</u> 指數弁 30cm/nd 手動弁 水平、垂直、mm 光覚 前方向から光をあてる (場合によっては暗室) 光覚 (-) RV= LV=		・ 眼の高さ (視力表の1.0の位置) ・ 眼を細めない ・ 前のめりにならない ・ かろうじて見えたたら答える	風を生じさせない	記載方法は種々

10 分	休憩	
80 分	実習	
10 分	まとめ	

テーマ	両眼視機能について（初回講義）				
グループ	D	人数	5名	教員歴	1~4年

### 学習指導案

科目名	基礎視能矯正学実習	講師名		日/時間		/90分
時間／段階	講義内容					
時間	指導内容・指導方法			留意点		
導入 5分	ヒトと動物の両眼視の違いから抵抗なく本題へと導く  定義：両眼視（binocular vision）は、両眼でそれぞれ受け入れた感覚を統合して生じる視覚である  両眼視野：両眼視野は、右眼視野と左眼視野の重なった部分である。この両眼視野の部分で両眼視が行われる			日常での両眼視の役割について説明  Two pencil 法によって体験させる		
20分	実際空間と視空間：実際にある外界と、それを眼で見て感じることは異なっている。この客観的な外界を実際空間といい、これに対して主観的な視覚の場を視空間という。すなわち、客観的な実際空間における方向線は、主観的に見ている物体の方向を視方向という。					
20分	網膜対応：網膜の各部位は、常に一定の視方向を持ち共通の視方向を持つ両眼の部位はそれぞれ対応している。これを網膜対応という。共通の視方向を持つ両眼の網膜部位を網膜対応点といい、両眼の網膜対応点は重なっている。  網膜対応点に投影された像は、同一視方向に感覚されるから、両眼の位置が正常であれば、外界の物は単一視される。			重複眼を作図させることで理解を深める		

20分	<p>ホロプロテルと Vieth-Muller circle : 両眼で一点を固視しているとき、各眼網膜の各一对の対応点に結像するような外界の点群は一つの面を構成する。この面をホロプロテルと呼ぶ。</p> <p>両眼単一視されるホロプロテルは各眼の結点と両眼での固視点を通る一つの円を形成する。この円を Vieth-Muller circle と呼ぶ。</p>	ホロプロテルと Vieth-Muller circle の違いを明確にする
20分	<p>Panum 融像圏 : 理論上は、ホロプロテル円上から離れた位置のものは複視を生じるが、実際にはホロプロテル円の近くにあるものは融像によって単一視できる。この範囲を Panum 融像圏と呼ぶ。Panum 融像圏での融像は立体視を得るために役立つ。</p>	中心部が狭いのに対し、周辺部が広いのは何故かと問いかける 分解能が高い→中心部が狭い 分解能が低い→周辺部が広い 錐体細胞密度の違いに着目させる
5分	質疑応答	

テーマ	両眼視機能について（初回講義）				
グループ	F	人数	6名	教員歴	4~11年

### 学習指導案

科目名	両眼視	講師名		日/時間		90/180分
時間／段階	講義内容					
時間	指導内容・指導方法	留意点				
導入 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>両眼視って何でしょうか？</li> <li>両眼視野</li> <li>※ カキの視野について語る。</li> </ul>	※視野を先に習っていると仮定。  				
展開 60分	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリズムでの複視の体験</li> <li>同一視方向を持たない場合を体験する為にプリズムを使って複視を体験する。</li> </ul>	※両眼視体験が出来ない人への対応を考えておく。 ※プリズムの基底方向に留意する。				
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間局在</li> <li>プリントを配布し、対応点を作図させる。</li> <li>網膜対応</li> <li>作図したプリントを使用し、網膜対応を説明する。</li> <li>ホロプロター</li> <li>教員が作図</li> <li>学生には眼球 24mm、自分の瞳孔間距離でホロプロターを作図させる。</li> </ul> <p>次回 対応感覚圈 生理的複視 重複眼 同時視、両眼視の検査 融像 立体視</p>	※グループワークを行う。  ※作図した資料を次回講義の資料とする。				

テーマ	両眼視機能について（初回講義）				
グループ	H	人数	6名	教員歴	2~20年

### 学習指導案

科目名	基礎視能矯正学実習	講師名		日/時間		/90分		
科目目標		講義目標			準備物			
		1. 両眼視機能に興味を持たせる 2. 両眼視を学んでいくにあたって、両眼視によつて起こる現象を体験させる			Convergence カード ステレオカード			
時間／段階	講義内容							
時間	指導内容・指導方法			留意点				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入をメインとする</li> <li>・導入内容は、後に講義する内容を網羅するように工夫しておく</li> <li>※ 専門用語を端々に出すが、「言葉の各論」の講義にならないように注意</li> <li>※ 体験が主となる</li> </ul> <p>最初の質問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の目についての話。重なっている範囲があるが、なぜ？</li> </ul> <p>【体験内容】=講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 動物の目 (10分) : 両眼視野の話 (話の展開を両眼視のメリットへ →two pencil )</li> <li>(2) 両眼分離の体験 (Convergence カード体験 : 15分) : まず、1点のみで体験。○と○、○と□が重なることを体験させる。 →同時視・融像・抑制・視野闘争</li> <li>(3) 生理的複視の体験 (Convergence カード体験 2 : 20分) : 3点カード体験。見たところの○が重なる、見ていないところのものは重ならないことを体験させる。 →生理的複視・視空間</li> <li>(4) 指 2 本の体験(15分) : 中心窓で見なくても重なるところと、やっぱり重ならないところの体験 →Panum・生理的複視</li> <li>(5) ステレオ体験(5分) : 視差を体験させる (消しゴムとか?) →立体視</li> <li>(6) まとめ(5分) : 最初の質問に対する答え 両目を同時に使う (同時視・重ね合わせ) →融像→立体視</li> <li>(7) 次回講義の導入 (10分) : 両眼視の定義について視能学の p.176 の最初をレクチャーして終了</li> </ul>							

テーマ	両眼視機能について（初回講義）				
グループ	B	人数	6名	教員歴	1～3年

### 学習指導案

科目名	基礎視能矯正学	講師名	日/時間		1日/90分
時間／段階	講義内容				
時間	指導内容・指導方法	留意点			
導入	<導入(15分)> 1. 両眼視の定義 2. 両眼視の発達	定義・両眼視機能との違いを理解させる。			
展開		定義は配布した穴埋めのプリントに書かせる。			
まとめ	<p>&lt;展開(70分)&gt;</p> <p>3. 正常両眼視が成立するための条件 4. 両眼視野 5. 実際空間と視空間 6. 網膜対応 7. ホロプロテル円 8. Panum 融像圏</p> <p>&lt;まとめ(5分)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>両眼視は両眼でそれぞれ受け入れた感覚を統合して生じる視覚である。</li> <li>正常両眼視は両眼視野や網膜対応を含めさまざまな条件において成り立っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各項目について説明</li> <li>理解度の確認（固視・不等像視など）</li> </ul> <p>} 4～8は、今回の講義で特に重要なプリントであるので図を用いて理解を深めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>両眼視野 右眼視野と左眼視野の重なる部分で両眼単一視が行われ、その結果立体視が生れる。</li> <li>実際空間と視空間→網膜対応</li> <li>ホロプロテル円と Panum 融像圏 生理的複視（交差性複視・同側性複視）を体験させる。</li> </ul> <p>配布するプリントは、パワーポイントをコピーしたものでは学生がメモを取らなかったり、授業を聞かなかったりするので、穴うめにしたものにし、授業を聞きながら書かせる。</p>			

# 研修風景

## 研修開始



## 教育講演



## グループワーク





## 懇親会



## 修了証書授与





研修終了



第1回 日本視能訓練士養成施設連絡協議会 教員研修会 アンケート  
養成施設連絡協議会教員研修ワーキンググループ  
平成20年8月29日

第1回教員研修会へご参加いただきありがとうございました。

本研修会を今後継続し、よりよいものにしていくため、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記の設問にお答えください。

◇ 教員歴 ( 年 ヶ月 )

◇ 視能訓練士歴 ( 年 ヶ月 )

1. 研修会の運営について

- ・ 開催日の設定 (よい よくない どちらともいえない)  
よくないとすれば、いつ頃がよいでしょうか ( )
- ・ 全体の目的 (よい よくない どちらともいえない)
- ・ 全体タイムスケジュール (よい よくない どちらともいえない)

2. 教員研修全体のプログラム構成について

- ・ 教育講演 (あったほうがよい 不要である どちらともいえない)
- ・ 懇親会 (あったほうがよい 不要である どちらともいえない)
- ・ グループワークの実施  
(あったほうがよい 不要である どちらともいえない)

3. グループワークについて

- ① テーマはよかつたか (よい よくない どちらともいえない)
- ② 時間配分は適切だったか (適切である 長い 短い どちらともいえない)
- ③ グループ討議は有効だったか  
(有効だった 無駄であった どちらともいえない)
- ④ 個々の発表時間 (適切である 長い 短い どちらともいえない)
- ⑤ 質疑応答時間 (適切である 長い 短い どちらともいえない)
- ⑥ グループ人数 (多い 少ない どちらともいえない)
- ⑦ その他意見 (グループワークについて)

4. プログラム（要綱）内容について (よい よくない どちらともいえない)

5. 事前アナウンスについて (適切 不適切 どちらともいえない)

6. その他研修会運営に関するご意見

7. 研修会は教育活動の参考になった (なった ならない どちらともいえない)

8. また研修会に参加したいと思いますか

(思う 思わない どちらともいえない)

9. 研修会全体に対するご意見

10. 次回、取り上げてほしいテーマなどございましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

~~~~~

最後に・・・

研修会に対するご意見とは別に、今回の研修を振り返って、ご自身の感想などをお聞かせください

ありがとうございました



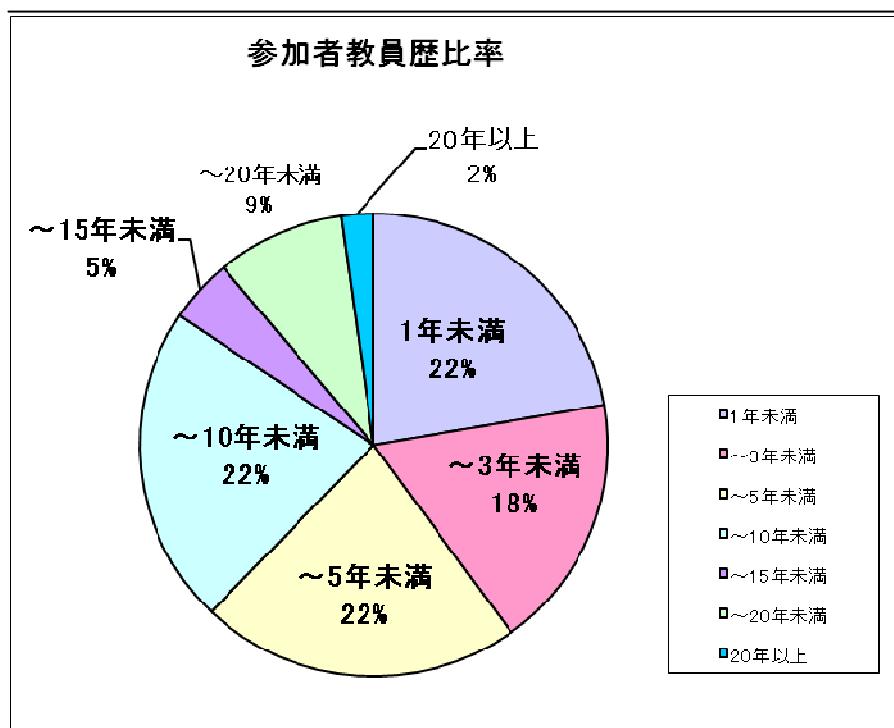
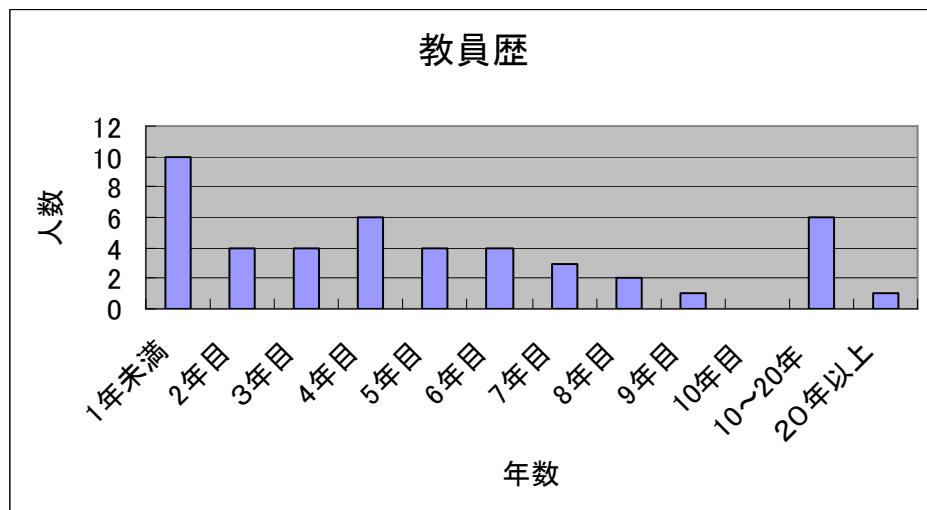
# 第一回教員研修会 アンケート結果

平成 20 年 8 月 28・29 日

研修参加者数 47 名 (全日程通り参加者 46 名)

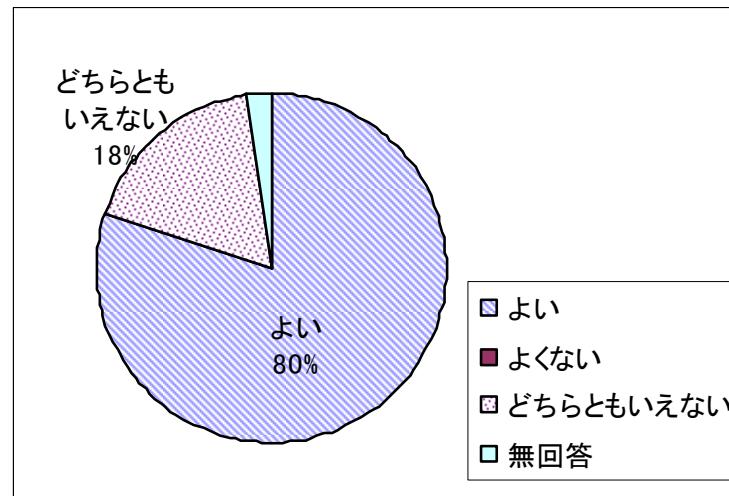
アンケート回答者数 45 名 (95.7%)

## 参加者教員歴

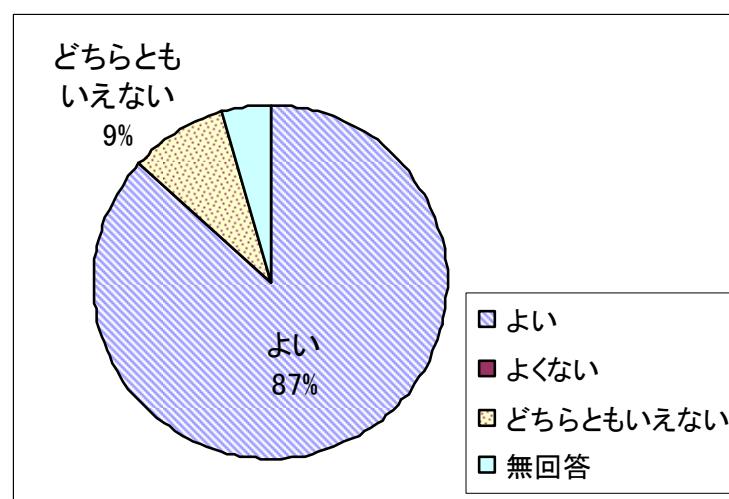


## 1. 研修会の運営について

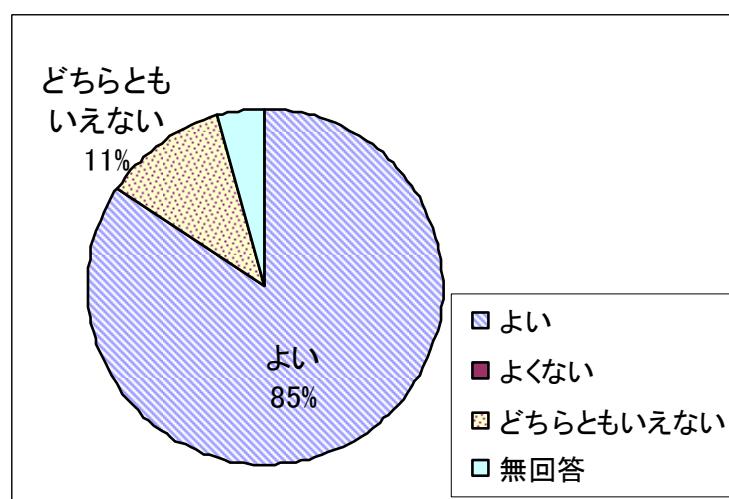
- ・ 開催日の設定



- ・ 全体の目的

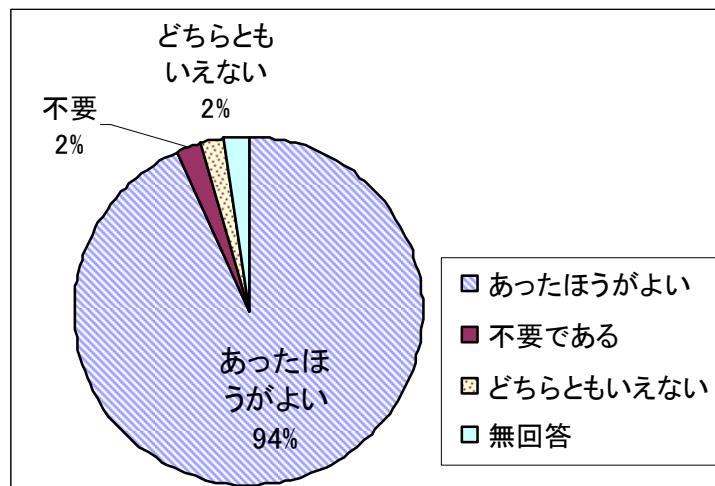


- ・ 全体タイムスケジュール

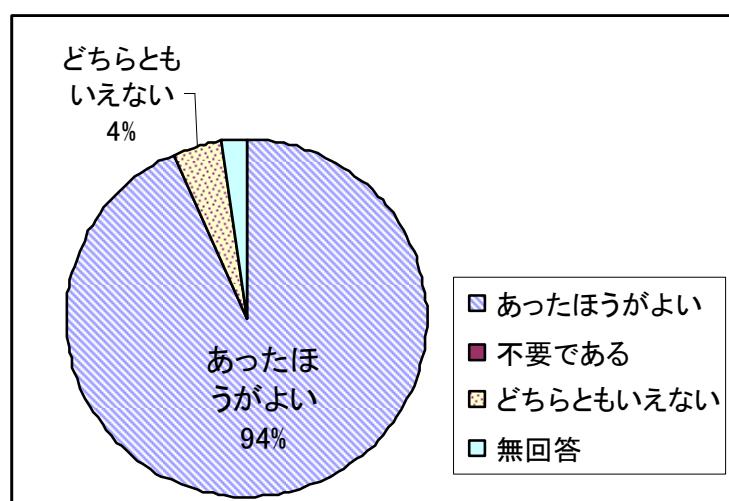


## 2. 教員研修全体のプログラムについて

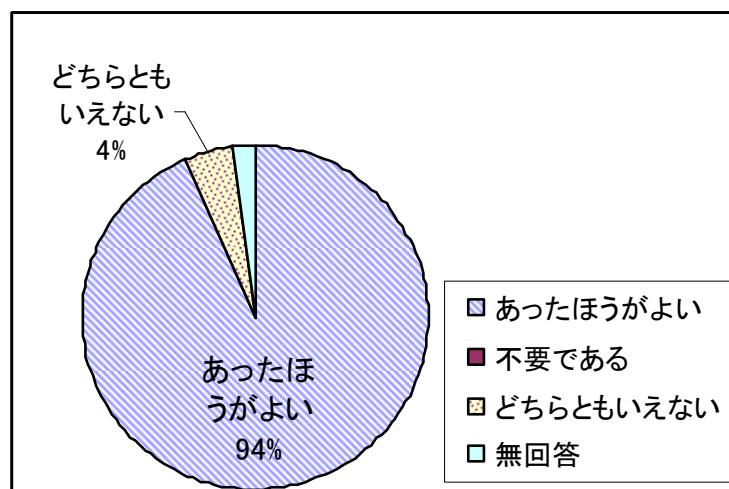
- 教育講演



- 懇親会

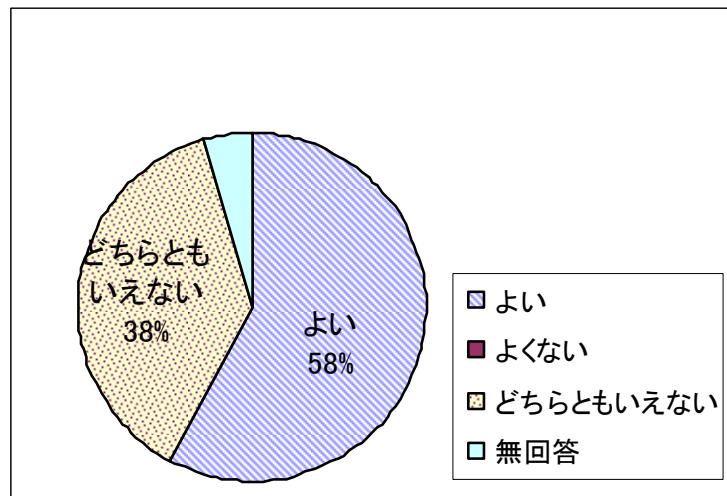


- グループワークの実施

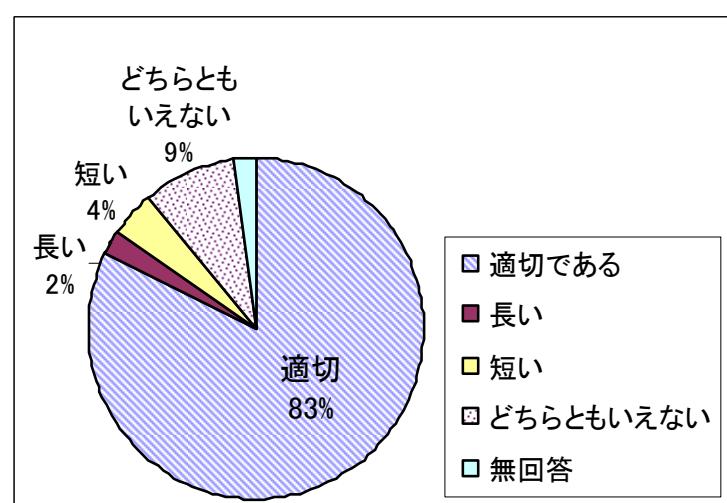


### 3. グループワークについて

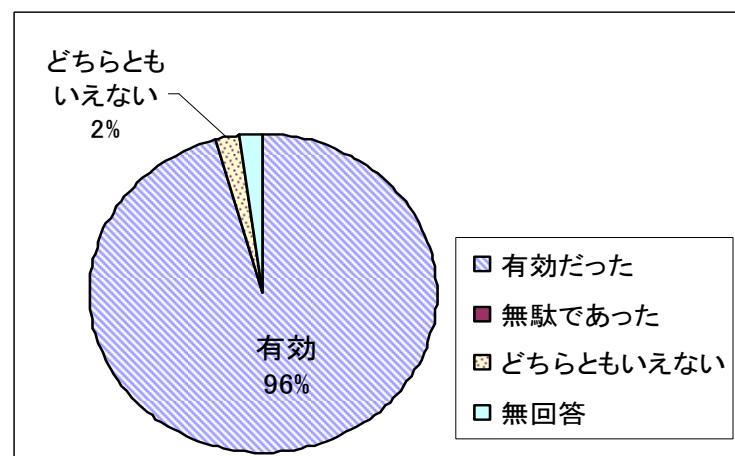
① テーマはよかったですか



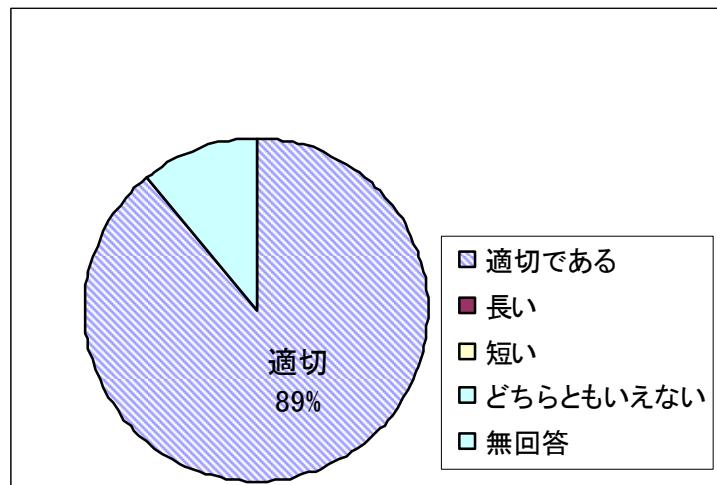
② 時間配分は適切だったか



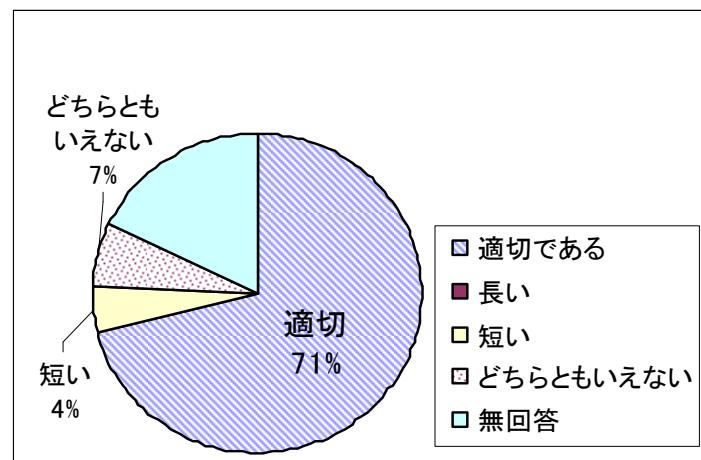
③ グループ討議は有効だったか



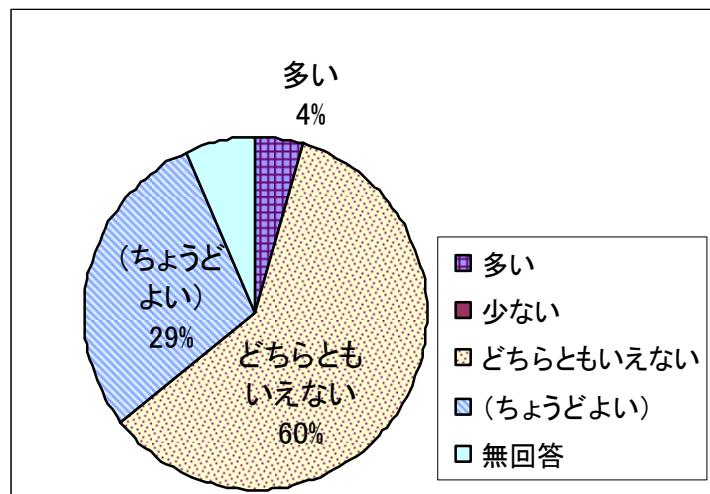
④ 個々の発表時間



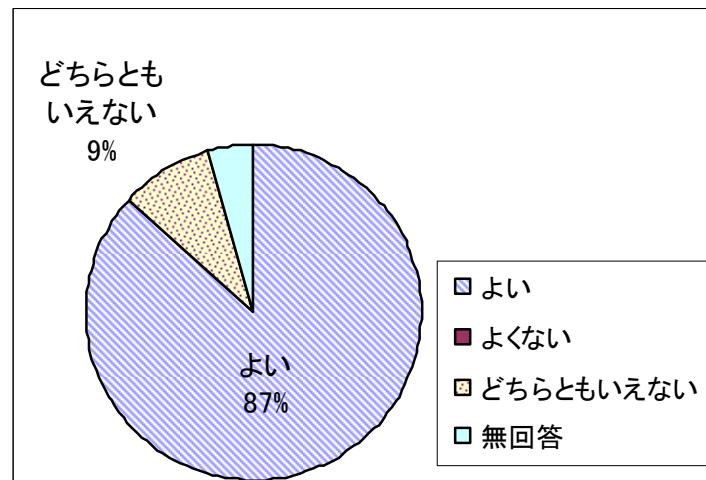
⑤ 質疑応答時間



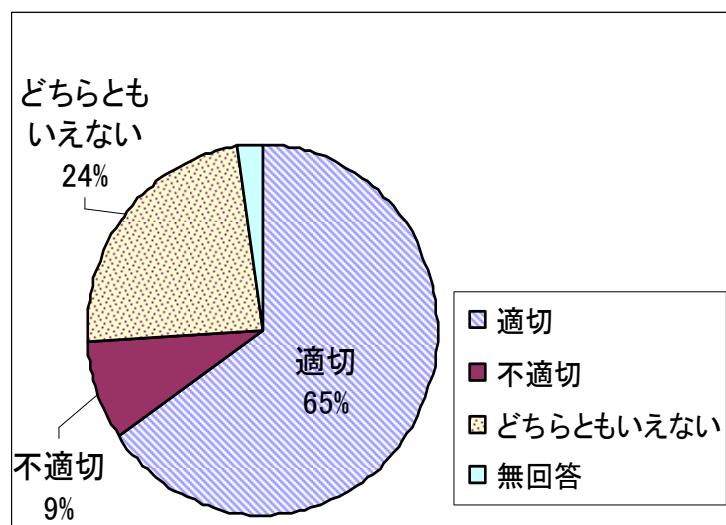
⑥ グループ人数



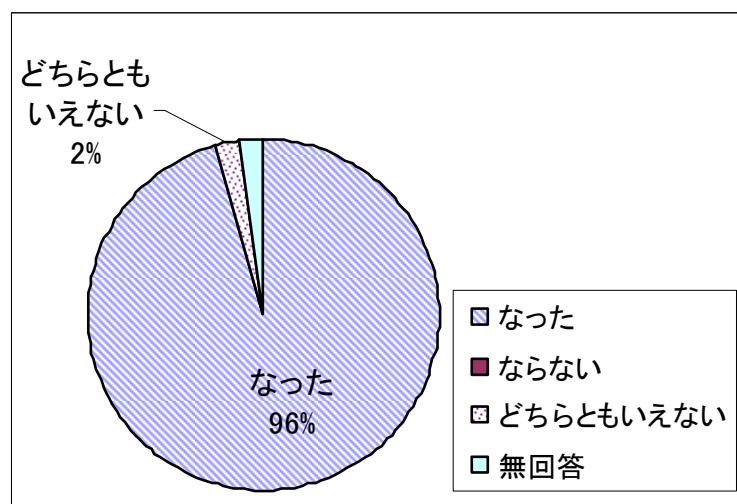
4. プログラム内容について



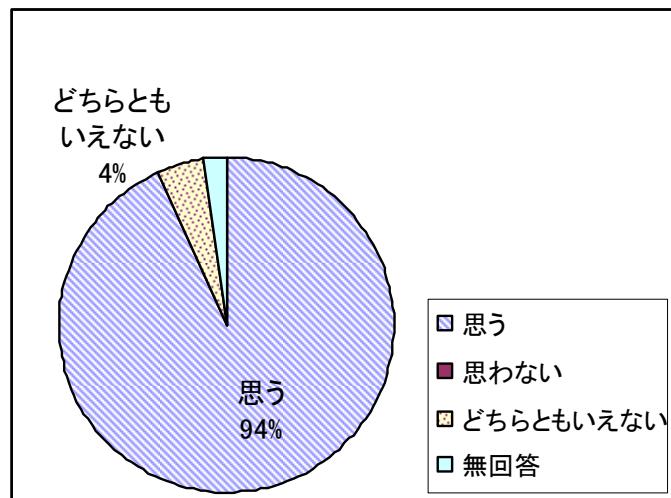
5. 事前アナウンスについて



6. 研修会は教育活動の参考になった



## 7. 今後の参加希望



## 意見・感想

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| グループワークについて | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの分け方は適切であった</li> <li>・有意義なディスカッションができた</li> <li>・明日からの授業に活かせる内容が多くあった</li> <li>・グループごとで別のテーマにする</li> <li>・事前に当たっているテーマを知りたい</li> <li>・事前にリーダーやメンバーを知りたい</li> <li>・PC の台数がもっとあればよかった</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                         |
| 研修会運営について   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・メリハリのある会でした</li> <li>・自身の教授法の見直しもでき良かった</li> <li>・養成施設が団結していくことで視能訓練士の抱える諸問題の解決に近づけるのではないかと期待する</li> <li>・最終案内やタイムテーブル等の連絡をもう少し早めにしてほしい</li> <li>・自身(遠方からの参加)の準備の都合があるので事前にテーマを知りたい</li> <li>・事前に参加者リストがほしい</li> <li>・PC の台数がもっとあればよかった</li> <li>・今回は良い環境での研修会だったが今後同じように提供できるとは限らない</li> </ul>                                                                                                                                            |
| 研修会全体について   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員同士の交流は今まで機会がなかったので今回は貴重な場となった</li> <li>・毎年必ず研修会を開催してほしいがマンネリ化しないことが重要だ</li> <li>・日頃あやふやになっている点は多くあり、それらを統一できるようになることを希望する</li> <li>・テーマにより参加したい教員が変わるとと思うので、まずテーマを決めてから次に参加者を募ってほしい</li> <li>・もう少しディスカッションの時間が長くとれれば良かった</li> <li>・修了証書のよりスマーズな渡し方の工夫</li> </ul>                                                                                                                                                                         |
| 取り上げてほしいテーマ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な専門分野<br/>(斜視・弱視・両眼視・眼球運動・生理光学・屈折検査・調節・視野・超音波検査)</li> <li>・実習の実施方法、評価方法(学内・学外)</li> <li>・理解度の違う学生の指導法</li> <li>・就職活動やメンタル面に問題がある学生指導</li> <li>・生活指導</li> <li>・模範授業見学</li> <li>・引き続き初步的なテーマ希望</li> <li>・統一されていない用語、記載方法など養成施設として統一していくような内容を取り入れていく</li> </ul>                                                                                                                                                                           |
| 感想          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験(視能訓練士歴・教員歴)が浅いので日々不安だったが大きな刺激を受けた</li> <li>・今までになかった(教育者だけが集まる場)情報交換の場であった</li> <li>・今回“教員”のみの会に参加できてとても有意義な時間がもてた</li> <li>・他施設の教育法や学生指導など様々な意見を聞くことができ大いに参考になり今後に役立てたい</li> <li>・自施設だけでなく他施設も共通の問題点を抱えていることが分かり互いに相談できて良かった</li> <li>・他施設の教員の方と「同じ一つのものを作り上げる」という目標により強い一体感をもつことができた</li> <li>・懇親会の開催により教員として団結や協力を再確認することができた</li> <li>・指導者が安心して授業を進めることができるテキスト作成を希望する</li> <li>・今以上に視能訓練士の啓蒙活動に力を入れなければならないという危機感が感じられた</li> </ul> |

## 会長総評

将来を担う有能な人材を育成するために、教員には「教育に対する情熱」や「使命感」に加え、時代に適応できる豊かな人間性や専門的技術、教養、実践的指導力が資質として求められます。さらに、子育てと同様、教員は学生にとって最も身近な手本であり、知識や技能の伝授に留まらず、教員の言動や考え方、医療に対する倫理感に至るまで多感な学生には大きく影響することを常に考えて接する必要があります。2006年問題に象徴されるように高校までのカリキュラムは一昔前と大幅に変化しており、ゆとり教育の影響による入学生の基礎学力の低下は歴然としています。また、メールや携帯ゲームの普及に加え、少子化で過保護に育った現代の学生には、与えられて当然という依存型が増加しており、コミュニケーション能力の不足や精神的脆さも指摘されています。将来の糧となる自分自身の引き出しを増やすために、苦労を惜しまず努力するモチベーションの高い学生がいる一方で、苦労せずに結果だけ得ようしたり、目の前に障害があると逃避したり、簡単に諦めてしまう学生や、将来の目標が定まらない学生も増加しています。このような学生の質の変化に対して従前の教育では十分な効果が得られにくくなってきており、指導法においてどのような工夫や改善が必要なのか、時間をかけて討議する研修の機会を持つことが、教員として重要な責務になってきております。教員研修は大学では FD (Faculty Development) としてその活動が義務付けられていますが、学科・学部単位を越えた全学横断的な取り組みが多いため、視能訓練士教育という限られた領域での突っ込んだ議論や研修はこれまで十分とは言えない状況でした。また、学会の教育セッションでも、教育手法の改善や新たな取り組みに関する演題は一部の養成校から単独で発表されていますが、日頃の指導法やその工夫に関して全国の養成施設間で意見交換や討議する交流の機会はなく、人材育成の共通認識もみられませんでした。

このような状況下で、今回、日本視能訓練士養成施設連絡協議会の長年の懸案だった教員研修会の開催にこぎつけたことは非常に大きな意義があります。全国レベルで専門学校と大学の教員が一堂に会して、教育指導方法を参加型のグループワークで研修することは、経験年数の浅い教員にはもちろんのこと、ベテラン教員にも参考になることが多いと思います。今回は基本的テーマを選定し、具体的な授業教案を作成していただきましたが、私自身、指導法に関して他施設での様々なアイデアや工夫を知ることができ、自らの指導法を顧みる上で大変参考になりました。

今後、多様化する学生の基礎学力や質の変化に対応するためには、一方向的な知識伝授型の講義だけでは十分な効果は得にくいと言われており、少人数編成で学生が自ら能動的に参加でき、様々な状況設定が可能なロールプレイの普及やチュートリアル教育の研修を取り入れることを検討する予定です。また、基礎学力の乏しい学生に対する効果的な学習支援を含めた初年時教育の在り方や early exposure に繋がる VOD や e-Learning を活用した新たな臨床教材の導入、心に問題を抱えた学生に対応するカウンセリング手法等も今後取り上げていきたいテーマです。ただ、私自身は、教員側に学生を引き付ける魅力や情熱に加え、知識が乏しく十分に整理されていない学生の視点に立った配慮が備わっていれば、知識伝授型であっても授業の組み立て方を工夫することで、学生からの授業評価を含め十分な教育効果は得

られると考えています。そのためには、ポイントを絞り、消化不良にならないよう内容の配分に留意し、適切な講義資料の提示に加え、毎回、知識の定着を図る小テストや前回授業の復習を行ったり、学生参加型の演習や発表を織りませる等、やはり、教員としての基本的研修がまず前提ではないでしょうか。

一方、他の医療職種の教育では、近年様々な取組みが報告されており、現在、医歯薬系養成教育では全国共通のコアカリキュラムが導入され、これに準拠して、知識・問題解決能力を評価する客観試験 (Computer Based Testing, CBT) や態度・臨床技能を評価する客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination, OSCE, オスキー) が実施されています。昨今、視能訓練士教育においても他職種との連携が重視され、同じ医療現場でチーム医療を担う一員であることを考慮すると、将来的にはコアカリキュラムや客観試験の導入を視野に入れて検討する必要があります。ただ、規模の大きい医歯薬系や看護系と異なり、視能訓練士養成施設の数はまだまだ少ないため、このような大掛かりな取り組みを早急に実行することは不可能ですが、これに関連して、臨床実習の改善に取り組む必要があると考えています。養成教育における外部施設を用いた臨床実習の現状は、依託施設側の指導者に指導内容の全てを任せている状態ですが、複数の養成校から学生を受け入れている指導者からは、学生個々のレベルの差が大きく、経験豊富な指導者であっても何をどこまで指導すべきなのか困惑するとの指摘や、同時に、評価法についても各養成校で異なるため記載が煩雑であるとの指摘もあります。臨床実習の改善には、すでに臨床工学技師などで導入されている実習ガイドラインの整備や評価基準の共有化に加え、多様化する学生の質に対応するため、前述したオスキーで臨床能力を客観的に評価し、実習指導者に予め学生個々のレベルを提示して、レベルに合わせてステップアップを図る指導が必要ではないでしょうか。

視能訓練士という医療職の将来的発展や社会的地位向上には、教員の資質向上や教育指導内容の充実が不可欠ですが、一部の養成校のみの取組みでは十分な効果や浸透は期待できません。全国の養成施設が一丸となって対処していくことが重要であり、協会による卒後教育の充実と密接に連携を図り、卒前教育の充実を図ることが本協議会及び教員研修会の果たすべき役割であると考えております。

今回の開催を足がかりに、今後、益々充実した研修および意見交換の場として継続し、発展していくことを期待するとともに、お忙しい中、企画から開催、報告書の作成に至までご尽力いただいた教員研修ワーキンググループの諸氏にこの場を借りて深謝いたします。

平成21年3月31日

日本視能訓練士養成施設連絡協議会

会長 新井田 孝裕

平成 20 年度教員研修ワーキンググループ事業報告

| 日時               | 曜      |            | 議事                                     | 会場                          |
|------------------|--------|------------|----------------------------------------|-----------------------------|
| 平成 19 年 12 月 2 日 | 日      | 第 1 回WG会議  | ML 開設の案内<br>研修内容の決定<br>開催までの工程の決<br>定  | 大阪医療センター<br>附属視能訓練学院        |
| 20 年 6 月 7 日     | 土      | 第 2 回WG会議  | 参加者の確認<br>研修グループの作成<br>特別講師へのご挨拶       | 大阪医療福祉専門学校                  |
| 7 月 20 日         | 日      | 第 3 回WG会議  | 当日役割分担の確認                              | 東京慈恵会医科大学<br>附属病院会議室        |
| 8 月 28 日<br>29 日 | 木<br>金 | 第 1 回教員研修会 |                                        | 国際医療福祉大学大学院<br>東京サテライトキャンパス |
| 9 月 28 日         | 日      | 第 4 回WG会議  | 研修会反省<br>アンケート結果<br>報告と分析<br>報告書作成打合わせ | 大阪医療センター<br>附属視能訓練学院        |
| 12 月 20 日        | 日      | 第 5 回WG会議  | 報告書最終打合わせ                              | 大阪医療センター<br>附属視能訓練学院        |

~~~~~

## 編集後記

“とにかくやってみよう”という掛け声のもと、第1回の教員研修会は行われた。

研修会には様々な形態があるが、今回はグループワークを主体とし、与えられたテーマをグループに分かれて話し合い、指導案を作成、発表する形態であった。設定がかなり大まかだったので参加者は戸惑い気味であったが、作業開始とともに熱気は高まり、活発な意見交換がなされた。グループ毎にそれぞれの課題を検討していくという作業の一方で、教員がかかる日々の苦悩・問題点を共有することができた。教員の経験年数の違いを超えて互いに大きな刺激を分け合い、明日につながる成果が得られた様子であった。

一つの結果を生むために、研修会を数回同様の形態で実施することが必要である。今後、教員研修会を実り多いものにするために、アンケートの結果などを参考に検討を加え、より良い形態の研修会に発展することを、そして教育の場からの経験を踏まえて、養成施設連絡協議会からまとめた提案を発信することができればと切に願う。

~~~~~

# アンケート単純集計

アンケート集計

| 設問                | 回答       |        |           |           |     | 合計数 |
|-------------------|----------|--------|-----------|-----------|-----|-----|
| 開催日の設定            | よい       | よくない   | どちらともいえない | 無回答       |     |     |
|                   | 36       | 0      | 8         | 1         |     | 45  |
| 全体の目的             | よい       | よくない   | どちらともいえない | 無回答       |     |     |
|                   | 39       | 0      | 4         | 2         |     | 45  |
| 全体タイム<br>スケジュール   | よい       | よくない   | どちらともいえない | 無回答       |     |     |
|                   | 38       | 0      | 5         | 2         |     | 45  |
| 教育講演              | あつたほうがよい | 不要である  | どちらともいえない | 無回答       |     |     |
|                   | 42       | 1      | 1         | 1         |     | 45  |
| 懇親会               | あつたほうがよい | 不要である  | どちらともいえない | 無回答       |     |     |
|                   | 42       | 0      | 2         | 1         |     | 45  |
| グループワーク<br>実施     | あつたほうがよい | 不要である  | どちらともいえない | 無回答       |     |     |
|                   | 42       | 0      | 2         | 1         |     | 45  |
| テーマについて           | よい       | よくない   | どちらともいえない | 無回答       |     |     |
|                   | 26       | 0      | 17        | 2         |     | 45  |
| 時間配分は<br>適切だったか   | 適切である    | 長い     | 短い        | どちらともいえない | 無回答 |     |
|                   | 37       | 1      | 2         | 4         | 1   | 45  |
| グループ討議は<br>有効だったか | 有効だった    | 無駄であった | どちらともいえない | 無回答       |     |     |
|                   | 43       | 0      | 1         | 1         |     | 45  |
| 個々の発表時間           | 適切である    | 長い     | 短い        | どちらともいえない | 無回答 |     |
|                   | 40       | 0      | 0         | 0         | 5   | 45  |
| 質疑応答時間            | 適切である    | 長い     | 短い        | どちらともいえない | 無回答 |     |
|                   | 32       | 0      | 2         | 3         | 8   | 45  |
| グループ人数            | 多い       | 少ない    | どちらともいえない | (ちょうどよい)  | 無回答 |     |
|                   | 2        | 0      | 27        | 13        | 3   | 45  |
| プログラム内容           | よい       | よくない   | どちらともいえない | 無回答       |     |     |
|                   | 39       | 0      | 4         | 2         |     | 45  |
| 事前アナウンス           | 適切       | 不適切    | どちらともいえない | 無回答       |     |     |
|                   | 30       | 4      | 11        | 1         |     | 46  |
| 教育活動の<br>参考になった   | なった      | ならない   | どちらともいえない | 無回答       |     |     |
|                   | 43       | 0      | 1         | 1         |     | 45  |
| また参加したい<br>と思うか   | 思う       | 思わない   | どちらともいえない | 無回答       |     |     |
|                   | 42       | 0      | 2         | 1         |     | 45  |

日本視能訓練士養成施設連絡協議会 加盟校一覧

|    | 施設名                           | 学科名                             | 所在地      |
|----|-------------------------------|---------------------------------|----------|
| 1  | 吉田学園医療歯科専門学校                  | 視能訓練学科                          | 北海道札幌市   |
| 2  | 北海道ハイテクノロジー専門学校               | 視能訓練土学科                         | 北海道恵庭市   |
| 3  | 東北文化学園専門学校                    | 視能訓練士科                          | 宮城県仙台市   |
| 4  | 東北文化学園大学                      | 医療福祉学部リハビリテーション学科<br>視覚機能学専攻    | 宮城県仙台市   |
| 5  | 新潟医療技術専門学校                    | 視能訓練士科                          | 新潟県新潟市   |
| 6  | 国際医療福祉大学                      | 保健医療学部視機能療法学科                   | 栃木県大田原市  |
| 7  | 日本医科学衛生福祉専門学校                 | 視能訓練士科                          | 埼玉県越谷市   |
| 8  | 浦和専門学校                        | 視能訓練士科                          | 埼玉県さいたま市 |
| 9  | 帝京大学                          | 医療技術学部視能矯正学科                    | 東京都板橋区   |
| 10 | 東京医薬専門学校                      | 視能訓練士科                          | 東京都江戸川区  |
| 11 | 北里大学                          | 医療衛生学部リハビリテーション学科<br>視覚機能療法学科専攻 | 神奈川県相模原市 |
| 12 | 平成医療専門学院                      | 視能訓練学科視能訓練科                     | 岐阜県岐阜市   |
| 13 | 東海医療科学専門学校                    | 視能訓練科                           | 愛知県名古屋市  |
| 14 | 愛知淑徳大学                        | 医療福祉学部医療貢献学科<br>視覚科学専攻          | 愛知県名古屋市  |
| 15 | 独立行政法人 国立病院機構大阪医療センター附属視能訓練学院 |                                 | 大阪府大阪市   |
| 16 | 大阪医専                          | 視能療法学科                          | 大阪府大阪市   |
| 17 | 大阪医療福祉専門学校                    | 視能訓練土学科                         | 大阪府大阪市   |
| 18 | 神戸総合医療専門学校                    | 視能訓練士科                          | 兵庫県神戸市   |
| 19 | 川崎医療福祉大学                      | 医療技術学部感覚矯正学科<br>視能矯正専攻          | 岡山県倉敷市   |
| 20 | 松江総合医療専門学校                    | 視能訓練士科                          | 島根県松江市   |
| 21 | 福岡国際医療福祉学院                    | 視機能療法学科                         | 福岡県福岡市   |
| 22 | 平松学園<br>大分視能訓練士専門学校           |                                 | 大分県大分市   |
| 23 | 九州保健福祉大学                      | 保健科学部視機能療法学                     | 宮崎県延岡市   |

平成 20 年度  
教員研修会報告書

平成 21 年 3 月 31 日発行

発行 日本視能訓練士養成施設連絡協議会

平成 20 年度事務局 国際医療福祉大学

〒324-8501 栃木県大田原市北金丸 2600-1

<許可無く複写転載を禁ず>